

「緑内障」で手遅れ失明にならないために 視力が良いうちから緑内障検診を!

「緑内障」とは、その人の眼が耐える以上の眼圧(眼圧)によって、視神経が障害され、放置すれば視野(見える範囲)や視力が障害される眼の病気です。緑内障は、視野障害が進行した末期になってから視力が障られるため、気付かず手遅れになる場合も多く、失明原因の第2位を占めています。

このため、「白内障は手術で治るが、緑内障は一度失った視力や視野は取り戻すことはできない」といわれるのは、残念ながら事実なのです。

しかし、早期に見出し、治療を継続することで緑内障の進行を抑え、失明を防止することが可能です。

〈緑内障による視野障害の進行状況〉



緑内障による視神経の障害に伴って、視野も障害され狭くなっていきます。

自覚症状なく進む 「正常眼圧緑内障」

日本眼科医会の調査でも、40歳以上では17人に一人(約6%)が緑内障にかかっていることが判明。しかも、全国では約510万人の患者がいるとみられています。受診しているのは60万人(約12%)にすぎません。そして、驚くことに、緑内障のうち過半数である約60%が、眼圧が正常範囲にある「正常眼圧緑内障」であることが近年判明し、大きな問題となっています。すなわち、大半の緑内障は知らないうちに病気が進行し、治療しなければ視神経が障害され、視覚障害に陥ることが多いのです。特に、「正常眼圧緑内障」は、眼圧が高くなる通常の緑内障とは違って自覚症状が乏しく、早期発見には、眼圧検査だけでなく、眼科医による眼底検査と精密視野検査で、視神経を精査することが不可欠なのです。

最近では、わずか数分間で緑内障を発見できる世界最速の視野測定器も開発されています。



早期発見と治療の継続で 失明の防止が可能に!

そして、緑内障の治療法も、最近、新しい目薬が開発され、さらに、レーザーでの凝固治療や手術も発達し、多くの方々の失明を防止することができるようになりました。

しかし、その恩恵にあずかるためにはなんととっても**早期発見・早期治療と治療の継続が最も大切**です。

しかしながら、残念なことに、特にご年配の方では、目が見えなくなるまでじつと我慢したり、治療を中断されて、完全な手遅れ状態となってしまう例が非常に多いのが悲しい現実なのです。

手遅れにならないために、目の疲れやかすみを感じるようになったら、メガネを作り直す前に、早めに眼科専門医での緑内障を含めた「**眼の成人病**」の検査をお勧め致します。

緑内障治療専用の安全な最新のレーザー治療機器(SLT)を導入しました。(健康保険が適用されます)

緑内障の患者様への朗報! 新しいレーザーによる 緑内障治療法について

成人の視覚障害原因の第2位を占める緑内障に対する、新しい最先端の治療法が導入されました。

この治療法は「選択的レーザー線維柱形成術」(SLT)という新しいレーザーによる緑内障の凝固治療法です。

このSLT治療法は、手術と違って、無痛で、かつ数分間程度の短時間で外来診療時に行えます。

しかも、この機器は従来のレーザーのエネルギーのわずか4000分の1という**超低エネルギー**で治療できるため**副作用や合併症の心配も少なく**、また、反復して実施することが可能です。

さらに、高価な機器のため日本でもわずか数十台しか導入されていませんが、SLT治療にも**健康保険が適用**されていますので、お気軽に当院のスタッフにご相談下さい。

このように、当院では緑内障の患者様に対しても、この新しい最先端医療のレーザー緑内障治療法を駆使し、点眼治療法と併用して、患者様の視覚障害防止を図っております。